

futbol y vida

Poco a poco ...
Poco a poco ...



新人戦は大成に現実(課題)を突き付けられる!!
2026年“鍛錬期”はカウントダウン!!

新人戦はエリート軍団の**大成**に敗退…。雑草軍団でもできたことはあった!!

2026年 冬の風物詩“鍛錬期”はいよいよクライマックスへ!!

新人戦兼関東大会予選四回戦は2月8日(日)に予定されていましたが、降雪により一週間順延となり15日片倉高校グランドで行われました。対戦相手の大成高校はこの十年間で東京を代表するチームに成長し(インターハイ出場)、今では有名ジュニアユースチームから多くの選手が志願し集まってくるまさにエリート軍団です。現在はT1リーグに所属しています。この三年間、公式戦で対戦するのはこれで三回目(選手権では二連敗中)。



今回はクレアのホームグランドでのゲームだけにどうか一矢を **東京を代表する大成高校に挑む** 報い勝利したいものです。しかし、一週間の順延の影響で怪我人が回復し戻ってきましたが、調子を上げていた一年生がインフルエンザに罹るなど、今回も結局メンバー13名という厳しいチーム状況で強豪大成高校に挑まなくてはなりませんでした。

片倉高校のキックオフでゲームはスタート。予想以上に相手陣地に入ることができ、早々に得たコーナーキックからのビッグチャンスはサイドネットへ。その後は、押し込まれる場面が何度もありましたが、ここまで取り組んできた**プレス&ハイライン&コンパクト&密集**で相手を困惑させることができました。しかし、前半32分、後半3分に一番警戒していた⑦田島選手に連続でゴールを奪われました。その後、チャンスは作りますがゴールは奪えずに後半39分にダメ押しゴールを決められて万事休す。残念ながら新人戦は四回戦で敗退となりました。

気が付けばいつのまにか雲の上に位置する大成高校相手に真っ向勝負で子どもたちは勇猛果敢に挑みましたが、やはり、選手個々の能力の差は素直に認めざるを得ませんでした。しかし、子どもたちは、公式戦という真剣勝負の中でできたことや通用したことを体感できて、今まで厳しいトレーニングで積み上げてきたことの成果を実感できたのではないのでしょうか。結果に悲観的にならずにこれを自信に変えて新シーズンの公式戦に向けてチームは直ぐにリスタートを切りました。負けたチームに休みはありません。引き続き応援よろしくお祈いします。



⚽ 新人戦四回戦 VS 大成高校 ⚽

片倉高校サッカー部の冬の風物詩「2026寒稽古」終了!! 「寒稽古とは何のためにあるのか？」

片倉高校サッカー部冬の“鍛錬期”の代名詞である恒例の「寒稽古」第二弾は、修学旅行から戻って直ぐの週に実施しました。前回より日の出の時刻は30分ほど早くなりましたが、異動して六年目で一番「寒稽古」に相応しい厳しい寒さの中で行うことができスタッフ一同喜んでます。

さて、寒稽古のメインテーマは『脳🧠トレーニング』で、現在チームが取り組んでいるトレーニングのベースの部分にアプローチしています。脳トレは“try&erroer“を繰り返して動作を習得し身につけていく前向きな考え方でトレーニングします。寒稽古とは新たなこと難しいことにチャレンジする子どもたちの心と身体を変えていきます。早起きするために自分で起きる強さや生活のリズムを整え、友だちが夢見ている時に寒稽古に向かう。主体的に生活をコントロールすること「自律」に繋がります。「苦しいところでの一歩」が出るか出ないかは、高校生活全てを賭けなければ手に入れることはできません。高校三年間はそれを手に入れるための大切な時間であり、厳しさから目を背けていたら大事な時に脳や身体は思うようには動きません。人間の身体と脳は相関関係が高く繋がっているのです。常に全てを出し切るギリギリの生活を継続していくためには「強い志と覚悟」がないと成立しません。そのためには、規則正しい生活、授業に真摯に取り組む、挨拶・返事をする、時間を守る、場を整えるなど「凡事徹底」が大切です。そして、素直な心と笑顔は必須ですね。日常の生活の中でその程度の辛いことができなければ、苦しい局面でもうひと頑張りにはできません。ヒントは日常の生活の中にあります。年に二回、二週間の「寒稽古」だけではもちろん足りませんがそのきっかけになればいいと思っています。そう、古今東西“早起きは三文の徳”なのです。今回も、お母さんたちに早起き弁当のご協力いただきましていつも本当に感謝しております。ありがとうございます🙏

<After the Game> やや再帰…

先日行われた大成戦は、「エリート軍団に雑草軍団がどこまで粘れるか？」と注目のカードとやや過大評価されたこともあり、チーム関係者以外の多くの方が観戦に訪れました。結果的には、上記のように敗れはしましたが、強豪校相手に最後まで闘えたのは、やはり片倉高校が誇れるトレーニング量だと思います。しかし、今年も大事な公式戦前にインフルエンザに罹るものがありました。冬のこの時期は、風邪やインフルエンザに新型コロナ、胃腸炎など、冬の寒さと空気の乾燥で感染症に罹りやすいものです。また、ケア不足などによるけがも同様です。それは今年に始まったことではありません。問題なのは感染症に罹らない努力、つまり予防対策を行ってきたのかどうかです。例えば、予防接種や公共交通機関・公共の場所でのマスクの着用、トレーニングや帰宅後の手洗いやうがいの励行など。予防対策をしっかりと行っても、この時期は免疫機能が低下するので罹患してしまうこともあります。日頃から体調管理はできて当たり前。高校生ならなおのことスポーツをするものならより一層です。こういう日常生活の積み重ねこそが「自律」に繋がるのです。しかし、昨年同様に新チームはピッチの上では頑張れるのですが、全般的に肝心である基本的な意識がとても低いように思います。他チームにはない優秀なスタッフ陣を揃えていても、片倉高校の子どもたちには残念ながら無用の長物のように感じるこの頃です。既に新生がトレーニングに参加しています。果たして、氷河期に突入したチームの先輩の背中を見て、新人たちは育つのでしょうか？新チームはプレー以外のところに多くの問題が潜在しているように思います。

